

岡山県金融経済動向

1. 概況

県内景気は、原油・原材料価格高の影響などから、減速している。

すなわち、最終需要面をみると、輸出が増加しているほか、設備投資も堅調に推移している。一方、個人消費は、弱めの動きとなっている。また、公共投資、住宅投資は低調に推移している。こうした中、原油・原材料高などを背景として、地場企業の企業収益が足もとでは減益見込みにあり、景況感も悪化している。

県内主要製造業の生産活動は、基調としては緩やかな増加傾向にあるものの、一部に弱さがみられる。

雇用・所得環境をみると、人手不足感が強いもとの、雇用者所得は振れを伴いつつも概ね横ばい圏内にある。

2. 実体経済

(1) 個人消費

個人消費は、弱めの動きとなっている。

すなわち、7月の販売動向をみると、百貨店売上高は、雑貨は堅調なもの、身の回り品、衣料品が不振であったことから、2か月連続で前年を下回った。スーパー売上高も、猛暑によって季節商品に動意はみられたものの、生活用品などが落ち込んだため、引き続き前年を下回った。

一方、乗用車販売は、前年に新潟県中越沖地震の影響で新車登録が後ずれしたことの反動や、新型車投入などによって、3か月振りに前年を上回った。家電販売も、猛暑や北京オリンピックの効果もあって、堅調に推移している。また、旅行取扱高は、団体を中心に海外旅行が前年を上回ったことから、全体でも前年を上回った。

この間、主要観光地への入り込みは、県外観光客の減少などから、前年を下回っている。

(2) 設備投資

県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、6月短観調査における20年度の設備投資計画をみると、製造業では、鉄鋼、石油・石炭製品（効率化、高付加価値化）、輸送用機械、一般機械（能力増強、新製品対応）、食料品（新製品対応）を中心に、一部に前年度からの投資のずれ込みも加わって、前年を2割強上回る計画となっている（前年比+25.1%）。また、非製造業でも、電気・ガス（燃料転換）、小売（新規出店）、運輸（倉庫建設）などを中心に小幅の増加計画となっている（同+2.8%）。この結果、全産業ベースでは、高水準である前年を2割弱上回る計画となっている（同+18.5%）。

なお、前回調査（3月調査）と比較すると、製造業では、鉄鋼を中心に大幅に上方修正されたほか、非製造業でも、電気・ガス、小売、運輸などが増加したことから、全産業ベースでも大幅な上方修正となっている。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積（非居住用）は、前年を下回っている（前年比：1～3月 15.1% 4～6月 16.7%）。

(3) 住宅投資

県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、持家やマンションを中心に需要が弱含んでいることもあって、低調に推移している。6月は、貸家は前年を上回ったものの、持家、マンションが前年を下回ったため、全体でも前年を下回った（前年比：5月 31.2% 6月 3.4%）。

(4) 公共投資

公共投資は、低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、7月は、「県」、「市町村」で前年を上回ったものの、「国」、「独立行政法人等」、「その他の公共的団体」が前年を大幅に下回ったため、全体では前年を下回った（前年比：6月 13.4% 7月 18.0%）。

(5) 輸 出

輸出は、増加している。

すなわち、7月の県内輸出（通関実績）をみると、アジア、西欧向けを中心に前年を大幅に上回った（前年比：6月+19.2% 7月+21.8%）。

(6) 生産・出荷・在庫

6月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の季調済前月比は、輸送機械、食料品、一般機械を中心に低下したことから、全体では2か月振りの低下となった(季調済前月<期>比:5月+0.7% 6月 0.1%、4~6月 1.0%)。

この間、出荷指数は、輸送機械、石油・石炭製品、その他製品を中心に上昇したことから、全体では2か月連続の上昇となった(季調済前月<期>比:5月+0.7% 6月+0.9%、4~6月 1.1%)。また、在庫指数は、化学、一般機械、ゴム製品を中心に、2か月連続の上昇となった(前年比:同+1.4% 同+2.8%)。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。自動車でも、輸出向けを中心に高操業を続けている。また、鉄鋼は、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。電気機械では、携帯電話向け部品等で弱めの動きがみられるものの、全体として高めの生産を続けているほか、耐火物でも、大手メーカーを中心に高めの生産を続けている。この間、石油化学では、一部で定期修理が終了したことなどから、全体では高めの生産となっている一方、石油精製は、需要の減少を受けて、生産水準を幾分引き下げている。このほか、繊維では、安価輸入品との競合や海外への生産シフトなどから、全体として低水準にある。また、農機具は、在庫調整の終了等により、生産が持ち直しつつある。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い先では、残業などによる生産対応を続けている。

(7) 雇用・所得

労働需給面をみると、7月の有効求人倍率が、高水準を続けている(6月1.24倍 7月1.23倍)一方、6月の所定外労働時間は、引き続き前年を大きく下回った(前年比:5月 14.1% 6月 13.9%)。雇用面をみると、6月の常用労働者数は、僅かながら前年を下回った(同:5月 0.3% 6月 0.1%)。この間、7月の解雇者数、雇用保険受給者数は、低めの水準となっている。このように、県内の雇用関連指標は、総じてみれば改善傾向にあるが、足もとでは弱めの動きがみられる。

賃金をみると、6月の一人当たり現金給与総額は、前年を上回った(前年比:5月 0.1% 6月+1.5%)。

この結果、雇用者所得は、振れを伴いつつも概ね横ばい圏内にある。

(8) 物 価

6月の岡山市消費者物価指数(平成17年基準、生鮮食品を除くベース)は、生鮮食品を除く食料、交通・通信などで前年比上昇率が拡大しているため、全体でも前年比上昇率が拡大している(前年比:5月+2.0% 6月+2.2%)。

(9) 企業倒産

7月の県内企業倒産(東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(17件<前年同月22件>)は前年を下回ったが、負債総額(82億円<同80億円>)は、大型倒産の影響で前年を上回った。

3 . 金 融

(1) 実質預金等

7月の県内実質預金をみると、個人預金、法人預金の前年比伸び率が低下したほか、公金預金のマイナス幅が拡大したことから、実質預金全体の伸び率は低下した(月中平残前年比:6月+3.0% 7月+2.7%)。

なお、地元10行庫の預り資産をみると、投資信託の伸び率が足もと鈍化しているものの、保険商品は引き続き高い伸び率となっている。

(2) 貸 出

7月の県内貸出をみると、個人向け、地公体向けが前月並みのプラス幅となる中、企業向けのマイナス幅が縮小したことから、貸出全体の伸び率は上昇した(月中平残前年比:6月+0.3% 7月+0.5%)。

(3) 貸出約定平均金利

7月の新規貸出約定平均金利(総合ベース)は、前月比低下した。一方、ストック金利(同)は、7か月振りに前月比上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707 岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

T E L 0 8 6 - 2 2 7 - 5 1 1 1 (代表)

F A X 0 8 6 - 2 2 7 - 6 3 5 0

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主要製造業の生産動向

業 種	足 も と の 動 向
自動車	輸出向け完成車を中心に、全体として高操業が続いている。 国内向け生産は、小型車で新車投入効果が剥落しつつあるものの、軽自動車では低燃費車種の需要の強まりもあって、幾分持ち直しつつある。一方、輸出向け生産は、KDが減少しているものの、完成車はロシア、中東、欧州向けを中心に引き続き堅調に推移している。 この間、生産現場では、残業などによる生産対応を続けている。
造船	豊富な受注残を背景に高操業が続いている。 造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業用機械の受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。 この間、生産現場では、残業などによる生産対応を続けている。
石油精製	原油処理量は高めの水準にあるが、幾分引き下がっている。 製品別にみると、ナフサは、需要が堅調に推移しているため、高めの生産水準となっている。ガソリンは、原油価格高による製品価格上昇の影響もあって、需要が一段と落ち込んだことから、一部の先では生産水準を引き下げて在庫調整を実施している。軽油は、内需が堅調に推移しているほか、輸出向けも増加したため、高水準の生産となった。灯油留分は、灯油では不要期入りしている中、燃料転換の進捗もあって需要が弱含んでいるものの、ジェット燃料が輸出向けの増加もあって堅調に推移しているため、高めの生産水準となっている。一方、重油は、生産量が減少傾向にある。
石油化学	定期修理が終了し、高めの生産水準に復帰している。 製品別にみると、ポリエチレンでは、一部に需要の弱さがみられるものの、定期修理が終了したため、高めの生産水準となっている。プロピレンでは、自動車向けを中心に需要が好調なことから、高めの生産となっている。一方、塩ビ樹脂は、採算の悪化を背景に、生産を取り止めた。この間、スチレンモノマー、ポリスチレンは、採算が悪化しているため、生産水準を幾分引き下げている。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準を続けている。 製品別の動向をみると、薄板類は、自動車・家電向けの高付加価値品を中心に需要が好調であり、全体としては高水準の生産となっている。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、改正建築基準法施行の影響が解消しつつあり、高めの生産となっている。棒鋼類は、建設向けで需要が落ち込んでいるものの、自動車向けが好調に推移しているため、全体としては高めの生産水準となっている。
耐火物	大手メーカーを中心に高めの生産が続いている。 大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。
電気機械	携帯電話向け部品等で弱めの動きがみられるものの、全体として高めの生産を続けている。 製品別にみると、電子部品は、液晶関連を中心に高めの生産を続けているが、携帯電話向けやデジタルカメラ向けで弱めの動きがみられる。また、スイッチは、携帯電話向けで弱めの動きが続いている。この間、デジタルビデオカメラは、新製品投入によって生産が増加している。
織 維	全体としては低水準の生産が続いている。 製品別にみると、綿織物、合繊織物、ジーンズは、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、作業服は、海外拠点への生産シフトを背景に、月々の振れを伴いながら、低調な生産が続いている。一方、学生服は、少子化の影響によって市場は長期的には縮小傾向にあるものの、足もとの需要は安定しており、生産水準は横ばいとなっている。
工作機械	高操業が続いている。 NC旋盤、MC(マシニングセンター)ともに、自動車関連、一般機械メーカー向けに豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。もっとも、国内外で先行きの景気情勢に不透明感が強まる中、新規受注については弱めの動きもみられている。 この間、繁忙度の高い生産現場では、残業などによる生産対応を続けている。
農 機 具	在庫調整の終了等により、生産が持ち直しつつある。 製品別にみると、コンバインでは、一部の先でみられた在庫調整が終了したため、生産は持ち直しつつあるが、末端需要の落ち込みなどからそのテンポは緩やかなものとなっている。携帯用刈払機は、一部の先で豪州向けが増加しているものの、国内向けでは需要期に向けた生産が一段落したこともあって、全体の生産は減少傾向にある。